



新型コロナの影響下で

COVID-19の

調査への影響について

今年の一月末頃、調査の準備は大詰めを迎え、あとは「外部研究機関による寺院診断」の調査内容との調整を行う段階になっていました。調整の作業も、三月初旬には骨格ができあがっておりましたが、この頃、大きな問題にぶつかることとなりました。

調査を実施するには、まず調査用紙を印刷しなくてはなりません。それは業者へ委託するのですが、依頼先の業者が通常業務ができなくなっていることがわか

第十一回宗勢基本調査が、二〇二〇年七月に実施される予定となっていました。しかし、読者の皆さまもご存知の通り、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）が蔓延しました。そのため、当初の予定通りに調査を実施することが困難となり延期となりましたことは、『宗報』6月号に既報の通りです。

りました。このように調査を実施することが物理的に困難になったのが延期の第一の要因です。

調査をする時期の問題について

また調査は、基準日を設定して実施されます。設問の中には、その時点での動向をお聞きするものも含まれています。元々の基準日は二〇二〇（令和二）年七月一日であり、おそらく各寺院をめぐる状況は大きく変化している真ただ中であることが推察されます。そのような状況の中で質問に答えていただくと、普段の寺院の状況とは異なる数値を得ること

になるでしょう。その結果、たとえば前回の調査結果と単純に比較することができなくなってしまう。

今回の調査は、四名の調査の専門家に依頼していますが、専門家のご意見としても、こうした状況において調査すると調査結果に揺らぎが生まれてしまうので、延期するのが適切ということでした。これが延期の第二の要因です。

COVID-19による

影響についての調査

一方で、このパンデミックが宗門にどのような影響をもたらすのか、宗派としては、いち早く影響を確認する必要がある。宗教だけでなく、日本社会が大きく変化することが予想され、その変化は幾つもの困難を生じさせているという声が各所で聴かれます。また同時に、多くの寺院でポストコロナを意識した活動を始めていらっしやいます。

宗勢基本調査は、宗派の施策の基礎

データとすることを目的の一つとしています。この目的を果たすためにも、COVID-19の影響が整理され始めた時点で、寺院の運営にどのような変化が生じているかについて検証し、今後の施策の基礎としたいと考えております。これが第三の要因です。

100年前のパンデミックに

ついて

日本社会は、およそ100年前の一九一八（大正七）～一九二〇（大正九）年に、スペイン風邪（スペインインフルエンザ）の猛威を受けました。

一九一八（大正七）年四月に、台湾巡業中の力士三人が亡くなり、さらに多くの力士へ感染します。その後、瞬く間に日本中に蔓延し、二年あまりで、およそ四五万人の命が失われました。当時の日本の人口は五六〇〇万人あまりですから、一三〇人に一人が亡くなったことになります。世界規模で見ると当時の世

界人口十八億人中、一億人が亡くなり、第一次世界大戦を実質的に終結させる要因になったと言われています。

人類はペストやコレラなど、繰り返しパンデミックを経験してきました。そして、パンデミックが起きるたびに、人間社会は大きく変容してきたと言われています。十四世紀に始まるペスト禍はヨーロッパ世界を恐怖のどん底に突き落とし、これに対応できなかったキリスト教は權威を失墜させることにもなりました。

この度のパンデミックは、果たして何をもたらすのでしょうか。

山本仏骨和上のご法話から

山本仏骨和上のご法話を紹介して、本稿をとじたいと思います。

この肉眼で見るとではない。心の眼で見させていただく。わかりますか。若い人は、そういうこと言うて誤魔化すというかも知れん。誤魔化

すんじゃないよ。かえって目で見えているものを頼っているというのは、自分を誤魔化しているんです。ご法義の世界というものは、心の眼をはっきりとあけていただくという事です。

私はね、小さい時に、父親も母親もね、姉も亡くなりました。しかし、父親も母親もね、ご法義を喜んでおりました。今でも、私の心の眼では、はっきりと生きております。そういう心の眼にはっきりと生きているものこそが、永遠に消えることも、どこまで行っても別れることもない、真実の世界であるということも申さねばなりません。

(YouTube 浄土真宗の法話配信「一九八六年 山本仏骨和上(2)」
<https://www.youtube.com/watch?v=ZjIAj3y6tY>)

山本仏骨和上のご家族は、スペイン風邪でお亡くなりになり、そのことが和上にとって仏門へと入るきっかけとなられ

ました。

真実の世界というご法義をどのように発信しうるのかという根本的な問いを持ちつつ、充実した宗勢基本調査を実施できるよう準備してまいりたいと思っております。

浄土真宗本願寺派総合研究所 副所長
藤丸智雄

くらしの仏教語豆事典

〈上巻〉276頁／〈下巻〉240頁／文庫判 各 本体 600円＋税

文 辻本 敬順 絵 寄藤 文平



見開き
2ページ
完結だから、
どこからでも
読める！



私たちのくらしの中に溶け込んでいる日常語の元をたどれば、

あれも、これも、みんな仏教語だった!!

いままで知らなかった、ことばの「ほんとう」の意味を
わかりやすく解説した全225話。仏教が楽しくなる本!!



本願寺出版社



0120-464-583 FAX 075-341-7753

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺) <http://hongwanji-shuppan.com/>

発送梱包手数料別
(税込3,000円以上は無料)